

1班①

日頃から防災。災害をイメージする

地域に住む人とのあいさつ、交流 どんな人が近くに住んでいるのか

被災地で仮設に住む人との会話

近所づきあい あいさつ

こだわりを聞くこと、知ること (ボラ)

節目と「記念」 元の意味 忘れない

イベントからつなげる意識ある?—Ex.中越 10年 思い起こさせる機会

同じ気持ちになる必要? **But** 同じ視点

自分をもって他者と関わる

なんでもかんでも一緒にやる ⇔ 「コミュ障」(?) ってすぐ言う学生

他人事だと思ったら何もはじまらない

防災意識→自分の地域は大丈夫という

つながりを持つことは「こわい」よね

関心を持ってくれることがうれしい

自分の言ったことばが伝わるか

しゃべる前はたくさんの準備、**知識**がいる

└ハードルを上げているのでは?

関心のない人をまきこみたいのに

└岩手のテレビでは毎日情報が流れてる

日常化しちゃっているのでは? 関心はある

知識の入れ方

←防災では大事かも

←ボランティアではいけない、むしろ邪魔にも?

知らない方がコミュニケーションも活発に?

ニーズを拾う上では同じ視点で考えることは大事

外部⇔内部

一緒に生活していても当事者になるのは難しい
→同じ気持ちにならなくても…

集中できる事を見つける
関係づくり（はじめまして）

病気に気づく（早めに）
関係を続けていく事

経験した人の話を聞く
自分事にする
継ぐ 伝える
同じ視点で考える
続ける

地域と関わる事
場
笑顔 ありがとう
命
〇〇し合っている

身近な人の存在の大切さ
交流する 仲良くする
子どもたちのためという気持ち
お手紙 たより
相手の気持ち
食事

女性、子供のニーズ もちろん男性も！！
全ての人々の声
衛生面（トイレ、風呂）など…
つながり続ける

大切なのは前例⇔〇
本当の関心 被災者→あの人→〇〇さん

1 班②

人との理解

3人にはなせば1人には伝わるかもしれない—のこり2人に伝えるには？

繋がる→面とむかって会う

身近な人の事ならていこうなくできる

身近な人（身内）の理解

不特定多数ではなくて、身近な人間に伝える、語り継ぐ

それを積み重ねることで、「形」になり得るはず。

→「教訓」をそれぞれがくみ取るヒントに

小さな災害からも「教訓」「ヒント」はきっとある

風化

きいた事だけを伝えるではなく自分の思い

ボラく伝える

どうやって伝えていくのか

「自分事」としていかにとらえるか？

←「助け合い」「思いやり」「当事者意識」（の重要性）

節目で多くの人々が来た、その時の人の層を運営側がしっかり把握しておけば、来た人の思いにも応えられ、今後にもつながったと思う

「知らない世代」だからこそ、発信し続けること。

→「自分の命を守ること」それ以上に、「自分のまわりの人間の命を守ること」（これを伝えたい！）

命をまもる、家族の命をまもる

震災で課題ができたのではなく もとからあったかだいが

違いをみとめあう→十人十色

どのようにして、「伝え続けていく」のか？

「伝える」アプローチをどうするか？

直接聞く⇔知識

自分の気付いてない思い→ 生きたい — 一緒

何でも一緒にする
同じ視点で考える
自分事にする→同じ気持ちになる必要×
難しい→知らない環境
違いを認める→一人は支えられている
└当事者意識 コミュニティ
教訓が活かされていない

2 班

経験豊富なアホ！？
└同じ失敗を繰り返さない→向上心！
→迷惑をかけてしまう…？
⇔アホになる！ = “大人” になりたくない！ →でも大人にはなってしまう…
└ありのまま 白紙のまま
└疑問を出す 恥を忘れる
└誰にでも同じように接する
└人それぞれの“アホさ”

社会問題に対する問題意識を、別の問題意識に変えるブラックボックス
└ボランティア一人との出会い

外部の人間と地域内の住民のニーズとをどうマッチさせる？
└外の人が内の人を聴く→利害関係が無いから話しやすい
└内の人同士で話し合う →外部の人間がどう関われるか？
→地域コミュニティ

話し合うことで、お互いを理解 ← 話し合い以外にもあるんじゃないの？
(Ex.障害をもつ方に対する過剰なおせっかい
└地域を全体として促えるのではなく、1人1人を見る
└全員で話し合う機会を
└祭りなどは有るが、防災について話し合う機会は少ない
1人1人を大切に

つながりをどう広げていくのか。互いの理解が必要？

2011年夏に大学からボラバス@岩手南部

集団ーボランティアー集団

いろんな意見がある。

話をきくしかない。

欲張りにならない

行動してみる、継続する、東日本大震災をきっかけに

“人の声を聴く”

問題を解決するのは難しい…

2年の月日 墓参り

ボランティアとの境界線？

個人の関係→社会の問題？

修正、、

自分の合いそうな人 合う合わない

つながりをだいじにする

ちいきとのつながり

3班①

どういう所にボランティアに行けばいいかわからない

→ボラバスというしくみがあったから行けた

気が付いたら参加していた

あたりまえ＝「幸せ」

そのあたりまえを幸せに感じてほしい

『災害に関わる「きっかけ」ある災害で友人を亡くした。』

災害に大きいも小さいもない

「伝える」→小さい声も拾っていくことを重点に置く

ボランティアをあたりまえにする←今井直人

→ボランティアはすごいことじゃない

→きっかけがなくてもパッと行ける→身近な地域でも出来るように

小さな声をきく

被害の大きな人の話は伝わりやすい

被害の少ない人の話にも伝えるべきことがある

小さな声、大勢の記憶にのこらない災害

災害に大小はない→けどじっさいは記憶にのこらない災害がある

→きば、死者数のちがい

他人事な被災 「もしかしたら被災していたのは私だったのかもしれない」という感覚

できることはしてもらう、できないことは一緒に

「行かない理由が無い」

きっかけ、ボランティアするときの障壁

行かない理由がない

復興の主役は被災地の人

ふみこむはんいとふみこまないはんい

被災してるしてないのギャップ

防災マップづくり 防災訓練がきっかけ→隣の人と仲良く

ボランティアを通して学んだこと

・話をきくこと

・コミュニケーションにまごころをこめる

→家族関係よくなる

あえて行く理由は考えない→遊びに行く感覚

→達成したら行かなくなるのがイヤ

→共通点が必要 「きっかけ」は必要

↑当事者となるとつながりづくりはむずかしい

ボランティア→身近な感謝

「自分」が生きるには「周り」が大事！！

自分が大事だと思ったことを突き進める！

人の話を聞く！ 足湯

ボランティアに行かない理由がない！

助け合い→ふれ合い

直接話を聞く機会 減

どこまでふみこんでいいか
被災地の人が身近に感じる
共通点

継続する

おせっかいすぎない
支援に行くよりも人に会いに行く
相手の立場に立つ
当たり前と思わない
人の声を拾う 聴く
行動に移してみる
つながりのきっかけをつくる

凄いととは？

縁側のつながり
何かのきっかけで変わる
小さ声を拾っていく
人とのつながり
東北＝観光≠ボランティア

3班②

数十年後につながりあうボランティア活動

「一緒にやる」被災者という人はいない、1人の人として
地域とのつながりを大切に
地元の意見を大切に

ネットだけのつながりは本当につながりとはよべるの？
じっさい会ってつながるのがつながりじゃないのか

ひごろからの食生活の大切さを伝える、守る

私からの発信

日頃の栄養大事→栄養不足、病気にまけない体作りを
栄養→体が悪くなる→病気

やりたいことをできる世界をつくり出していく！！

人の話を聞く 傾聴

地域 近所、地元の防災知識共有

日頃からのつながりを大事にする

どうやったら相手と一緒にやっていけるか

相手のニーズをくみとって

ボランティアのつながり A⇔B 相互理解

ボランティア→対被災者の狭い視野でしてしまう・・

→型にはまらない人間になる！！

出来るはんいでボランティア

思いがあっても出来ない。

災害 ふれる

地域→地域 つながり

やりたいことはやる！！やるぞ～！！

20年経っても“つながり”未来を、将来を変えていく

4 班

「防災」「ボランティア」のイメージが固定化しているのでは？そのイメージを変えれば
自分自身が変わることにつながるのでは

防災グッズはなぜ1人前なのか、自分だけたすかればいいのか

→ひとり助かった人には罪悪感がある人もいる

→みんながプラスワンもっていたら困ったときに誰かを助けられる防災グッズがあっても
いいかも

かんまんな死と呼ばれた“孤独死”を防ぐこと、

いきいきとした命にかかわることも防災ではないのか

災害直後の生き死にだけが防災なのか

災害が起こる日本が当たり前と思うことが大切

いのちを守る

もう一度阪神淡路大震災が起こったら…

「恐怖」や「想像」が行動や現実結びつかない。

自分のみを守る

なぜ後輩は興味をもってくれないの？東北への関心がうすれてる？

話せることないかもと思ってたけど、今日きてみたらいっぱい話せた！

支援者の mind もせまくなりがち

目の前の人にあわせながら考え、動き方を考えてみるのも大切

違いを認め合う「本音で向き合う」「みんな違って、みんないい。」

→どこまでできているのだろうか？（社会として、個人として）

「助け合い」「思いやり」に満ちた社会の構築の大切さ

「当事者意識」を持つことの重要性→「想像力」を育むこと

→「自分事」としてとらえること。

自分におきかえて考える

自分を大切にする、そう思えると自分も変わる

→「自分」が変わる

定期的に思い返す 自分が主体的に動く

その人ができることをする

防災って直後をどうするかだけではない

安心感⇔とっさに判断できるか

地震大国日本

「実感」

「被災者」というくくり??

震災前からの地域の課題が災害で噴出する

色んな視点から 防災は直後だけではない

公園から子供が減っている

防災意識 避難訓練くなぜ防災なのか？

→いかに災害から逃れたいか

1. 17→3. 11に活かされたのか??

震災ボランティア→“直後”のイメージ

防災 災害直後のサバイバル…ではなくて

→逃げ切った後も…支援

継続→体で覚える

体にしみこむ防災

防災「しつこいくらい」

「死」への恐怖→防災？

閉鎖的ボランティアグループ

個人で何が出来るか

ボランティア 気持ちの継続

目に見えない復興

情報過多→まひ

距離感⇔スマホ、インターネット

楽しいこと

経験者の話

“違い”を認め合う

つながり いじめ

ヒアリング

地域性

ご近所づきあいの重要性？

→「コミュニティー」をいかに構築して、そしてその密度（つながり）を強めていくか？

ということ

5班

神戸宣言から

- ・希望の追求と…の行
- ・最後の行

新しい社会システムを創造する力

目の前の困ってる人を見て、世の中全体のおかしさに気付く。→必要！

仮設住宅で活動

家から出てこない人

自分が被災者になったら

経験者からの話→実感→興味→自分の生活に還元する

災害がおこったら失うものが大きい。を知った。

お金、家、仕事 選択肢が狭くなる。

支援者がいない間にしっかり生きてもらうために何ができるか？

興味がない人に話す→ひかれてしまうのではという恐怖

→数をこなせばいいのでは、〇〇しませんか？具体的に誘う

地元に戻ってできることをしていく

近所付き合い

近くの人にはできないことが遠方のひとにはできる

震災・災害おきてしまったら仕方ない？

ボランティアをしたから知らない被災地のことも分かる、身近に感じる、お互い様

20年その人たちを巻き込むことをやってこなかったんじゃないか

→社会には色々な生き方の人が出て、社会の問題に興味がない人をどう巻き込むか、それが難しい

神戸のしんさいのボランティアの方がすごかったらしい

→いいいみでも悪いいみでも強さがある

どうやったら興味を持ってもらえるか、伝えられるか。

行って終わりではない。

ボラバスに乗って、変わったことがある。きっかけがあった。

「場」があっても踏み込んでいけなかった。

人と人の距離感 立場—立場

“笑顔”相手の笑顔が自分を笑顔にする

知っている人同士だからできる事

知らない人同士だからできる事

つながり 人と人との助け合いや近所の人がどんな人か分からない

現地に行くことだけがボランティアじゃない

多くの人々に伝える 伝えることを恐れずに

モチベーション 伝え方

継続支援の難しさ→地元に戻ってどう活かすのか

想像と現実を感じる→実感

意欲があるけど何をすればいいのか…大人の人にリードしてほしい。

児童障害のフリースペース ボランティアの壁が無くなった→自分で立ち上げた

地域との中でできることができるのではないか…→なんなのか？ 意識

非日常と日常 “地元でもできたやん”

6 班

相手の立ち場になって考える

当事者意識、自分ごととして考える

不特定多数ではなく身近な人に語る それを積み重ねる

嫌われたらどうしようではなく、自分がやりたいことをやる

目の前のことじゃなくて見えないことにいつてる（歩きスマホとか）

体験をしていないと語っては行けないのか

感謝 関心 地域・コミュニティ

空気をよまない

人に同調すると、それぞれがもっている多様な感覚が失われる

空気を変えるには声をあげること

インプット⇔アウトプット

伝統と語りつぐのかんけい

自助・共助・公助

空気読む KY → AKY あえて空気よまない

1人ひとりの震災体験は十人十色＝当事者意識をもつ

陰湿 違いを認める みんな違ってみんないい

津波で流された写真を返す 大切やなあ～ 笑顔

どうしたら少数意見にたどりつけるのか

→大事なのは分かるが…

→「気づき力」声をたて続けること

何でも二者択一で考えていいのか？

本当に声をだせない人の声をどうきくか

声をきく（聞・聴）とは？

声はことばだけなのか？

誰にでもわけへだてなく接することが、どれほどできているだろうか？

アホになると聞ける

あいさつ 場所

0と1 いっぱ

縁側の付き合い（主に仮設住宅）

長期化する避難生活

防災を意識しない防災意識

コミュニティー

感謝

周波数を合わせる一声を聴く

語りの担い手の資格

つながりの大切さとしんどさ

想像／共感

助け合い、見返り

多数派、少数派、意見を出せない人←忘れない